

講義年月日 2007年7月9日(月)

講演者 リンダ・グローブ教授(国際教養学部教授・学术交流担当副学長)

テーマ グローバルに活動する研究者にとっての図書館とは

講義内容

1. 研究者からみた図書館への要望について

上智大学の挑戦している課題

専門は、東洋史・20世紀中国社会経済史

アメリカにいた頃は、専門資料がとても少なかった。

ただし、紹介状さえあれば、アクセスは難しくなかった。

1980年代、天津市の南開大学では、紹介状があっても資料の閲覧は難しく、人間ネットワークが必要だった。

・戦前のもは、研究者は見せてもらいましたが、学部学生には見せてもらえなかった。(目録すら公開されていない)

・資料のコピーサービスも難しかった(大学の中に一箇所しかコピーの機械がなかった)、そしてかなり高額だった。

昔は、手でうつす方が多く、現在はコピーをたくさんとっていたため、資料がありすぎ、整理に困っていた。

現在は、オンラインカタログ(OPAC)があるため、何がどこにあるのかがすぐにわかるようになった。テキストを公開しているものもある。

昔とは環境がちがってきている。便利さが変わり、研究のやり方が変わってきている。

研究者にとっては、図書館が一番大切な施設である。

図書館は、大学図書館、一般図書館、特殊図書館(国会図書館等)がある。

大学図書館の使命とは、特殊なものを所蔵することではない。

では、大学図書館は何をするべきか？

教員、学生のための資料を置く

・基礎資料(博士論文を書くまでの基礎資料を幅広く揃えること)

・学術雑誌(オンラインジャーナル 検索が速い、バックナンバーもすぐ見ることができ、データでの保管が可能なのでコピーの必要がなく環境にも優しい、資料を取りにいく必要がないなど便利なものである。)

各大学の創立の精神関係のものを置く。

学生指導と教員の相談役になること(専門レファレンスライブラリアンに)。

## 2. これからの課題（上智大学の課題）

### ・研究所の改革

上智大学には13の研究所がある。中世思想研究所には5万冊のコレクションがあり、毎年2,000~3,000冊増えている。これらの所蔵資料は利用しづらい。それぞれの研究所で所蔵していた図書をOPACにのせた際、その研究所の整理番号のままでやった。今後図書館に資料を統合する場合、どのように配架するか、また今後購入する資料はどうするのか課題である。

### ・書架スペースの問題

### ・予算の問題

ジャーナルの価格高騰、大学で連携して購入するしかないのではないか。

### ・システム改革